

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100232		
法人名	社会福祉法人青葉福祉会		
事業所名	グループホームはちまんの風 ユニット:こもれび		
所在地	宮城県仙台市青葉区八幡4-7-6		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と共に、一つの家族となるよう、アットホームなホームを目指しております。ご利用者様、ご家族様、職員共々、理念に掲げている「笑顔」となれるような、毎日の生活、ケアを心がけています。高齢者複合施設の特性を生かして、施設合同の行事(夏祭り・敬老式・合同芋煮会・BBQ・餅つきなど)、ホーム単独の行事(お花見・母の日・お月見・紅葉ドライブ・ミニミニ運動会・クリスマス会等)を催し、季節や、他者との交流を図り、閉ざされた環境となることなく、また、地域との繋がりに力を入れたいと、今年は、消防団に職員2人が入団、認知症カフェのボランティア、白はとパトロールに登録させていただいたり、夜間想定避難訓練では、地域の方々の参加に加え、学生寮からは、2人の学生が参加して下さるなど、少しずつではありますが、活動の場を広げることが出来るよう努めております。その中で、24時間常に、誰かはこの施設で、何かあった時の駆け込み的な安心出来る場所でありたい、そう思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

由緒ある神社の近隣高台にある。通所介護・ケアハウスと同一建物の2階部分にあるため、天候に左右されることなく、また、入り口にある法人事務所の見守りがあるため、建物の中を自由に移動することができる。今年度、新たに掲げた事業所理念「笑顔・素直・感謝」をもとに、職員は同じ目標をもって利用者へ関わっている。職員の介護技術の向上を目指し、外部研修や資格取得を奨励する等、職員の育成にも努めている。事業所が地域へ働きかけたことにより、避難訓練では近隣の学生の参加があった。また、「消防団に入る」、「子ども110番を引き受ける」など地域に貢献し、良好な関係である。職員は、利用者の希望や状態により、個別に外出した望食を楽しめるような企画をするなど、思いを実現できるよう努めている。看取り体制は整っており、経験している職員も多く、その都度振り返りを行っている。運営推進委員会や家族会では、事業所運営についてなど活発な話し合いを行い、運営に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHはちまんの風）「ユニット名 こもれび」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「生涯福祉」をもとに、今年度、はちまんの風の理念を「笑顔・素直・感謝」に改め、日々、実践に繋げるよう努めている。日々、ケアで悩んだり、迷った場合には、理念を振り返り、お互い、問いかけ合うようにしている。	職員と話し合い、新たに事業所理念をつくり、事務室へ掲示している。ユニット会議や個別ケースにおいて振り返りを行い、職員の意識向上と職員間の連携を深めている。利用者の笑顔が見られるよう、職員は、「素直・感謝の気持ち」で利用者に関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防団2名登録、認知症カフェボランティア、白はとパトロール登録、子供110番登録した。また、夏祭りには、地域の方々達にも声をかけ、敬老式では、龍寶寺をお借りし、夜間想定避難訓練では、地域の方々の参加に加え、学生寮の学生2人も参加して下さった。町内の回覧板に、隔月3ヶ月毎に地域版の新聞を入れて頂いている。	避難訓練のポスターを学生寮へ掲示したことにより、学生が訓練に参加した。近隣の寺とは、協力関係が築けており、敬老式の会場を借りている。今後は、「子ども食堂」の研修を受ける予定もあり、地域へ貢献することに意欲的に取り組み、地域と繋がりを広げ深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェのボランティア参加、中学生の職場体験受入れ(今年度は男子中学生4人)大学生の研究のための定期的な受け入れを継続的に行っている。その都度、子供達から、認知症の人、困っている人・・・見守りや支援が必要な人がいる、ということ、発信源となってくれば・・・ということ意識して関わるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者様の入退居状況、ホームでの生活の様子、行事予定などを報告。出席者からの質問・要望・意見を伺い、アドバイスを頂いたり、町内会の催し物の情報を頂いたりしている。	町内会長、町内会親睦会長、民生委員、地域包括職員、家族、管理者、職員が出席し年6回開催している。ホーム行事・事故報告、地域行事の情報交換を行い、意見や要望を聞く機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	届出等不明な点は、その都度問い合わせ、教えて頂いている。事故報告は、速やかに報告・対応している。市主催の研修にも参加出来るよう努めて来た。	市主催の研修に参加している。事故報告、届出等の相談や成年後見人との連携などについて連絡することにより、協力関係が築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。エレベーターも暗証キーなどの設置はないため、所在の確認や1階事務所とも連携し利用者の安全に務めている。月に一回委員会を開き、現在は、ベッド柵のみとなった。柵を外すことを試みてはいるが、危険であり、常に状況や危険性を伝え、ご理解頂き、ご家族の希望もあり、柵を使用している。身体拘束の勉強会に参加、ユニット会議などでも話し合い、常に意識し合っている。	職員研修により、身体拘束に関する理解を深め実践に取り組んでいる。身体拘束委員会を月1回開催し、各ユニット合同での事故報告・事故防止、利用者の状態変化についての対応を検討している。建物入り口にある法人事務所の協力もあり、建物内の移動も自由である。玄関入り口は、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の入職時、オリエンテーションでも行っているが、職員が研修会に参加するなどし、虐待に関しての理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいない、が、隣のユニットに、今年の10月に入居された方が、利用している。今後、研修会などに参加、勉強の機会を設けて行く予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書で説明、確認している。入居後、起こりうるリスクに関しても説明、理解を頂くようにしている。改定などがあった場合は、文書等で説明、同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、職員から声をかけるなどし、日頃の様子・状態を伝えたり、ご家族様とのコミュニケーションに努めている。玄関に意見箱を置いているが、今のところ投書はない。家族会を年3回主催、ご家族のみで話せる場を設け、その中で出た話しは、職員全員で共有、日々のケアに活かして行けるよう心がけている。	家族会の意見により、職員の名前と顔がわかるように、入り口に写真を掲示した。また、離職率・無資格者の研修・散歩時の様子・レクリエーション活動についての質問・意見については、後日、説明文書を全利用者家族へ送付している。日頃のコミュニケーションも大切に、意見・要望が話しやすい関係づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を2ヶ月に1回、ユニット会議は毎月開催、毎朝・夕の申し送り時に出された話しにも耳を傾け、運営に反映して行けるよう努めている。	ユニット会議や申し送り時に、意見や要望を伝えている。調理や入浴時間の体制変更について話し合い、利用者がゆっくり過ごせるよう検討している。また、職員シフトを冬時間へ変更する等、職員の意見が反映されている。	更に、職員の意見を聞く機会を増やし、働きやすい環境を整備するために、職場アンケートの実施を検討することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限りの範囲で休日等の希望が叶うよう、また、シフトのバランスに偏りが出ないように配慮している。個別面談などで、個人の思い・考えなどを聞いて、少しでも働きやすい職場となるよう、努めている。常に、職員とのコミュニケーションを取ることを意識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の理事長研修を始め、法人内外の研修参加、会議において、伝達研修を行うこともある、それによって、他の職員のスキルアップとなるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県GH協議会に入会している。主催の管理者研修に参加、他職員にも研修会等に参加させたいが、シフトが出たからの案内が多く、頻度は少ない。ただ、出前講座があり、講師をお願いし、こちらに来て頂いて、研修を行う予定はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の言動・表情から、不安や混乱を利用者様目線となり、探るよう努め、ご家族様・ケアマネ等から、ホームに入居される前の情報を教えて頂いたりするなどし、少しでも本人様が安心出来るよう、環境作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前に、ご家族様から、思い・願い・困っていることなどを聞き、職員と情報の共有を図り、また、利用開始後も、ホームでの様子など状況の報告を行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前に、ご本人・ご家族の希望等を把握するために、実態調査を行っている。その際には、ケアマネ・相談員等にも同席して頂き、ニーズ・必要なサービスについて検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業(食器洗い、拭き・モップがけ・洗濯物干し、たたみ・食事作り等)出来ることを一緒に行ったり、散歩、外出、行事なども、職員も一緒に楽しみながら支援するよう、共に生活している、ということを常に意識し、日々の支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状況によっては、ご家族様と電話で話して頂けるよう、前もってご家族様にお願ひし、了承頂いている。面会時は、日々の様子を伝え、一緒に過ごすことが出来るような場所の提供をするよう、心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みの床屋さんにお連れしたり、叔母様が同建物内のデイサービスを利用していることから、デイ利用日に面会が出来るよう配慮したり、昔から付き合いのあるクリーニング屋さん、ヤクルト屋さんも出入りしている。また、ホーム入居前より利用していた同施設内のデイサービスに通っている方もいる。	馴染みの理容室、ホーム内のデイサービス利用等の関係継続を支援している。休日に家族・親戚が来訪する時には、同法人のデイサービスホールを提供するなど、ゆっくり過ごせるよう配慮している。以前より付き合いのあったクリーニング業者の出入りも続けている。電話や手紙なども希望があれば続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性・様子などを考慮しながら、座席位置を決めたり、耳が遠い方でも楽しんでもらえるよう、職員が間に入るなどし、居場所作り・環境作りに努め、孤立することがないように、心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先への情報の提供、退居後に面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が、日頃よりご利用者様一人一人と関わる時間を持つよう努め、言動・表情などから不安や混乱などの心情を知るよう努め、ユニット会議などで、情報の共有を図るようにしている。また、場合によっては、選択肢を設け、選んで頂いたり・・・ということもある。	趣味や職歴などの情報を入居時に把握し、日頃の食事の様子や行動・表情から、本人の思いを汲んでいる。職員間で、情報を共有し、家族にも確認するなど、本人の不安や混乱を理解して支援できるように努めている。利用者間の関係変化にも気を配り、職員が個別に声をかけ、ゆっくり話を聴く等して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホーム入居前のアセスメント・ご家族の思いや要望・これまでの生活・サービス利用状況も含め、生活パターンを知るなど情報収集し、職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の状態把握をするために、状態によっては、1日1回から数回のバイタル測定を行っている。また、表情・顔色・言動などからも心身の状態把握に努め、ケース記録に記載、朝・夕の申し送り時や、申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などを利用し、個々の利用者様について話し合う機会を設けている。また、ご家族様とも話し合う機会を設け、本人・ご家族様の意向を把握し、出来る限り沿えるように、様々な角度から計画を立てるように努めている。	ユニット会議では、職員全員が利用者の状態などの情報を共有している。各利用者の担当職員は、介護計画をもとにアセスメント票に記入し、他の職員、医師や看護師の指示や意見を介護計画に反映している。家族へも定期的に、状態を報告して、意向を確認し、介護計画を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や申し送りなどで情報を共有し、行えそうなことは、プランに入れるなど心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他ご利用者様よりも歳も若く、日中の生活の場の提供ということで、他法人のデイケアに通っている方がいる。また、同法人内、同施設内のデイサービスに通われている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭に地域の方々が手伝いに来て下さったり、避難訓練の際は、地域の方々に加え、学生寮の学生2名が参加。また、敬老式では、龍寶寺さんから場所の提供を頂いたり、近くにあるデイケアを利用するなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族の希望を伺いながら、かかりつけ医との医療継続を希望する方には、受診支援をしている。状態によっては、主治医と相談、主治医の指示のもと、ご家族と相談の上、専門医への受診支援を行っている。	往診医をかかりつけ医にしている利用者が多いが、以前からのかかりつけ医へ継続して通院している人もいる。体調等に変化がある場合には、医師へ相談し、必要時には往診時に家族が同席している。状況によって、職員が通院時に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態に留意し、変化がある時は、訪問看護師に報告、アドバイスを頂いたりしている。必要時は、医療関係機関との連携や速やかな受診に繋げるようにしている。(訪問看護師は、週1回の定期訪問あり)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入退院時や、入院中の医師からの説明時は、出来るだけ職員(管理者・リーダー)が同席させて頂き、入院の原因・入院期間の見込み・治療計画・治療経過・退院後の諸注意などについて確認・相談している。ご家族とは、入院期間中も連絡を取るようになり、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関わる指針について文書作成。説明・同意を書面にて取り交わしている。また、終末期の対応について、状況・状態の変化に応じて、ご家族・主治医との話し合いを行い、ホームで出来るケアについての説明を都度、行っている。	入居時に指針をもとに説明し、重度化など状態の変化により主治医へ相談し、再度、家族から意向を確認している。職員は研修を受けている。看取りの実績があり、看取り後はユニット会議で振り返りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習はこれからの予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練の実施。運営推進会議において、地域住民への協力を呼びかけたり、学生寮には、ポスターを張らせて頂き、地域住民に加えて、学生2名の参加もあった。	避難訓練には、近所の学生や住民の協力を得ている。部屋入口に、表には花、裏には避難時の移動手段がわかるようなカードを、さり気なくかけて準備してある。また、蛍光文字のタスキや腕章等も準備して、利用者、協力者がわかるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様それぞれにあった声かけ・状況に応じた声のトーンに配慮、年上の方である、ということ、決して子供扱いのような言動で、自尊心を傷付けないようにしている。	職員間では、声かけやアイコンタクト等の合図を行い、自尊心に配慮した対応をしている。研修にも参加し、職員間で振り返りをして、情報を共有している。名前は「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思い・考えなどを言葉に出来ない利用者様には、思いや考えを読み取るよう努めている。押しつけにならぬよう、「○○しましょうか？」「それとも○○にしましょうか？」のような選択出来るような声かけや、具体的に選択肢を準備出来る物は準備するなどの働きかけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士連携を図りながら、安全面に配慮し、出来るだけその方のペースに合わせて過ごすことが出来るよう努めている。決めつけはせず、本人様の気持ちや体調に合わせて、活動に取り組むことが出来るよう、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望によっては、馴染みの理美容へお連れし、髪を染めたり、また、訪問理美容にて、カットをして頂いたり、自己決定出来るご利用者様は、起床時や、入浴前に職員と一緒に服を選んだり、また、行事・外出の際は、お化粧を楽しんだりして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握、その時の状態に合わせた食形態とし、食事時はテレビは消し、音楽を流し、職員とご利用者様が話しをしながら、ゆったりと食べることが出来るよう配慮。頻度的には少なかったが、いつもと雰囲気を変えて外でお昼ご飯を食べたり、といった支援をして来た。食材切り・盛り付け・後片付け、また、おやつづくりなど職員と一緒にすることも有る。	食事係が中心となり献立をたてている。年1回、同法人の栄養士がチェックし、必要時には相談できる体制がある。誕生日には、利用者の好みを聞いて外食することもあり、また、天気の良い時に、ホームの外に出て食事をするなど気分転換を行っている。寿司屋を呼んで、ホームの中で、回転寿司の気分を味わってもらおう企画をするなど、食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況・疾患に応じて、食事量・水分量をチェック表に記入・把握に努めている。状態によっては、とろみ使用、ミキサー食対応している。便秘予防にと、リンゴ・ヨーグルトを入居前からの習慣があり、入居後も継続・提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアの支援を行っている。夜間は、義歯のある方は、外し、入れ歯洗浄剤に付け、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、早めの声がけにより、トイレでの排泄が出来るよう、支援している。また、夜間オムツ対応の方がいるが、日中は、リハパンを使用してトイレ誘導し、なるべくトイレで気持ち良く排泄出来るよう努めている。	排泄チェック表により、パターンを把握している。夜間は、パット使用やポータブルトイレ利用の人もいるが、日中は、トイレで排泄できるよう支援している。起床時に冷たいジュースや野菜を多く摂る、腹部マッサージを行うなど、自然排泄が促せるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表により、排便状況を把握している。食材に野菜を多く提供、毎日の体操支援。便秘の方はトイレ使用の際腹部マッサージ・ホットタオルで温めたりしている。また、起床時に冷水・オリゴジュース提供たり、昔からの習慣のリンゴ・ヨーグルトを毎日提供している方もいる。下剤に出来るだけ頼らずに、自然排便に繋がるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴誘導を工夫し、入浴したいタイミングに合わせて行っている。入浴拒否が見られた際は時間をおいて声をかけてみたり、体重測定の為等と声をかけてスムーズに入れるように工夫している。状態によって、シャワー浴、清拭対応をしている。簡易リフトを設置している。	週2～3回は入浴できるよう支援している。お湯は、毎回交換し、リフト浴も可能で、利用者の状態により個別に対応している。希望があれば、同性介護により入浴することができる。菖蒲湯やみかん湯などの行事浴にも取り組んでいる。入浴を好まない利用者には、時間や職員を替えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも疲労状態に合わせて、休息をとれるようにしている。(環境も整えている)居室内の温度・湿度を管理し安眠出来るよう、心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルして管理している。薬の変更があった場合は、申し送りノート、朝・夕の申し送り時に情報の共有を図っている。また、状態の変化が見られた際も同じようにしている。必要時主治医へも報告行っている。服薬時は、名前・日にち等の復唱確認、飲み込むまでを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きだったこと・得意だったことなどをご家族より、聞き取りをしている。毎食後のテーブル拭き、フロアのモップ掛けが日課となっている方がいる。また、好きな創作活動や、俳句・編み物を提供したり、好きなDVDを鑑賞したり、皆でゲームをして遊んだり、日々楽しみを持って過ごして頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間の行事でお花見への外出を行っている。少人数でお寿司やパンを食べに行ったりなども実施している。個別にて、行きたいと希望があり秋保温泉に行かれた方もいた。また、誕生日を自宅で過ごしたいというご家族の希望の為に、送迎支援を行った。	今年度は、西公園の栈敷席・弁当を予約してお花見をした。年間行事計画の他、希望により、温泉やおはぎを買いに行くなどの個別対応をしている。また、近隣の神社のお祭りなど、随時外出することもある。家族協力により、外食や自宅への外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別立替金を準備しており、買い物の際は、支援しながら楽しんで頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は準備して出せるように支援をしている。希望があれば、電話をかける支援を行っている。居室内で携帯電話等でご家族に電話をかけられている方もいる。手紙やはがきを頻度的には少ないが、身内や友人とやり取りしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような設えを意識するようにしている。壁の装飾は、利用者様が作った物を毎月飾っている。また、リビングと台所が同一フロアである為、食事を作る音(食材を切る音など)洗濯機の回る音、テレビの音などが聞こえて来たり、ガラス越しからは自然光が入り、床はクッションフロアとなっている。	事業所は2階にあり、リビングは広く、大きな窓があり陽が入り明るく、やわらかい素材を使用した床になっている。台所からは、リビングや居室や廊下が見渡せる。大きなソファやテレビがあり、くつろげるスペースもある。温・湿度は職員が管理している。時計や日付は見やすく、掲示物は季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、ソファを置きそこに座って新聞を読まれたりDVDを楽しまれたり、また、気の合う利用者同士がゆったりと過ごすことが出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものが身近にあることの意味や効果をお話して協力を頂いている。また、居室に物が多すぎると気になり、落ち着かれない方もいる。その場合は簡素化しているというケースもある。本人様が、不安なく、気持ちよく生活できるような環境作りに努めている。TVを持ち込まれ、楽しまれている方もいる。リネン交換時等居室内の掃除や整理をする際は、出来る方はなるべく一緒に行うようにしている。	エアコン・洗面台が設置されている。写真や馴染みのある家具、固定電話を自宅から持ち込んでいる。仏壇のある利用者は、毎朝、お供えができるよう支援している。居室担当の職員がおり、利用者の状態や希望により、動線を考えて家具を配置している。家族の協力のもと衣類等の交換を行っている。利用者が落ち着いて過ごせるように、利用者と一緒に片付けを行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示や掲示物など、生活の手がかりとなるものを出来るだけ配置、自立に向けた支援をしている。壁伝いに手すりがある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100232		
法人名	社会福祉法人青葉福祉会		
事業所名	グループホーム はちまんの風 ユニット:ひだまり		
所在地	宮城県仙台市青葉区八幡4丁目7-6		
自己評価作成日	平成29年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と共に、一つの家族となるよう、アットホームなホームを目指しております。ご利用者様、ご家族様、職員共々、理念に掲げている「笑顔」となれるような、毎日の生活、ケアを心がけています。高齢者複合施設の特性を生かして、施設合同の行事(夏祭り・敬老式・合同芋煮会・BBQ・餅つきなど)、ホーム単独の行事(お花見・母の日・お月見・紅葉ドライブ・ミニミニ運動会・クリスマス会等)を催し、季節や、他者との交流を図り、閉ざされた環境となることなく、また、地域との繋がりにも力を入れたいと、今年は、消防団に職員2人が入団、認知症カフェのボランティア、白はとパトロールに登録させていただいたり、夜間想定避難訓練では、地域の方々の参加に加え、学生寮からは、2人の学生が参加して下さるなど、少しずつではありますが、活動の場を広げることが出来るよう努めております。その中で、24時間常に、誰かはいるこの施設で、何かあった時の駆け込み的な安心出来る場所でありたい、そう思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

由緒ある神社の近隣高台にある。通所介護・ケアハウスと同一建物の2階部分にあるため、天候に左右されることなく、また、入り口にある法人事務所の見守りがあるため、建物の中を自由に移動することができる。今年度、新たに掲げた事業所理念「笑顔・素直・感謝」をもとに、職員は同じ目標をもって利用者へ関わっている。職員の介護技術の向上を目指し、外部研修や資格取得を奨励する等、職員の育成にも努めている。事業所が地域へ働きかけたことにより、避難訓練では近隣の学生の参加があった。また、「消防団に入る」、「子ども110番を引き受ける」など地域に貢献し、良好な関係である。職員は、利用者の希望や状態により、個別に外出した望食を楽しめるような企画をするなど、思いを実現できるよう努めている。看取り体制は整っており、経験している職員も多く、その都度振り返りを行なっている。運営推進委員会や家族会では、事業所運営についてなど活発な話し合いを行い、運営に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHはちまんの風 ）「ユニット名 ひだまり 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である、「生涯福祉」を基に今年度はちまんの風の理念を「笑顔・素直・感謝」改め実践につなげるよう努めている。日々ケアで悩んだり、迷った場合は、理念に沿ってケアの方針を考えている。	職員と話し合い、新たに事業所理念をつくり、事務室へ掲示している。ユニット会議や個別ケースにおいて振り返りを行い、職員の意識向上と職員間の連携を深めている。利用者の笑顔が見られるよう、職員は、「素直・感謝の気持ち」で利用者に関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員2名が地区の消防団へ入団し、活動に参加している。複合施設が、子供110番に登録している。白はとパトロールへ登録し活動へ参加を予定している。行事(夏祭り・敬老会)や防災訓練へ地域の方も参加して頂けた。11月の防災訓練では建物後ろ側の学生さんが2名参加してくださった。	避難訓練のポスターを学生寮へ掲示したことにより、学生が訓練に参加した。近隣の寺とは、協力関係が築けており、敬老式の会場を借りている。今後は、「子ども食堂」の研修を受ける予定もあり、地域へ貢献することに意欲的に取り組み、地域と繋がりを広げ深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れ、大学生の研究の為の受け入れを実施した。国見地域包括支援センターで開催している、「和カフェ」にボランティアとして参加し、講話も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し、利用者の入退居状況、ホームでの生活の様子、事故報告や行事予定など報告している。また、出席者より、地域行事の情報などを頂いている。	町内会長、町内会親睦会長、民生委員、地域包括職員、家族、管理者、職員が出席し年6回開催している。ホーム行事・事故報告、地域行事の情報交換を行い、意見や要望を聞く機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出不明な点は、その都度問い合わせし、教えて頂いている。事故報告は、速やかに報告・対応をしている。また、市主催の研修に参加出来るよう努めている。	市主催の研修に参加している。事故報告、届出等の相談や成年後見人との連携などについて連絡することにより、協力関係が築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。エレベーターも暗証キー等の設置はない為、所在の確認や1階事務所とも連携し、利用者の安全を図っている。身体拘束についての研修会に参加し、伝達研修を行った。	職員研修により、身体拘束に関する理解を深め実践に取り組んでいる。身体拘束委員会を月1回開催し、各ユニット合同での事故報告・事故防止、利用者の状態変化についての対応を検討している。建物入り口にある法人事務所の協力もあり、建物内の移動も自由である。玄関入り口は、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の入職時オリエンテーションにて、行っており、職員研修に参加し、伝達研修を行い虐待防止に関しての知識や理解に努めている。虐待防止委員会を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が、10月に入居されている。職員、研修に出て、伝達研修を行なっている。日常生活支援事業に関しては、ホーム内で生活支援を出来ているという事もあり、後見人制度との違いについての理解にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書で説明、納得して頂いている。不安や疑問が無いか確認している。入居後、起こりうるリスクについても説明、理解を頂くようにしている。また、改定などがあつた場合は、文書を作成、郵送・説明、同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族面会時は、日頃の様子・状態をお知らせしている。職員より声掛けを行い御家族とのコミュニケーションを図っている。玄関に意見箱を設置している。今の所投書はない。大きな行事後に家族会を開催し、御家族のみで話せる場を設け、意見等が出た際は、職員全員で共有、運営や日々のケアに活かして行くよう、努めている。運営推進会議に家族代表として、各ユニットより1名ずつ参加して頂いている。	家族会の意見により、職員の名前と顔がわかるように、入り口に写真を掲示した。また、離職率・無資格者の研修・散歩時の様子・レクリエーション活動についての質問・意見については、後日、説明文書を全利用者家族へ送付している。日頃のコミュニケーションも大切にし、意見・要望が話しやすい関係づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を2ヶ月に1回、ユニット会議は毎月実施し、職員からの意見を出してもらっている。年二回の個別面談の場を設けている。	ユニット会議や申し送り時に、意見や要望を伝えている。調理や入浴時間の体制変更について話し合い、利用者がゆっくり過ごせるよう検討している。また、職員シフトを冬時間へ変更する等、職員の意見が反映されている。	更に、職員の意見を聞く機会を増やし、働きやすい環境を整備するために、職場アンケートの実施を検討することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望勤務日を設け、出来るだけ休日や希望の勤務が叶うよう努めている。また、年2回の個別面談を行い、職員個人の思いや考えなどを聞き、働きやすい職場づくりを目指している。職員の希望により勤務時間の変更なども柔軟に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時には、理事長研修がある。法人内外の研修に出来るだけ参加出来るよう努めた。会議にて伝達研修を実施し、研修に参加していない職員のスキルアップになるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県GH協議会に入会しており、主催の管理者研修には参加しているが、研修会がシフトが出てからの案内になることが多くなかなか参加出来ていない。今年度は出張講座を利用し研修会を実施して頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が通われている、住まわれている所に訪問し、本人様へ困っている事はないか等の声掛けを行っている。また、ご家族、担当のケアマネ、施設職員等から、前情報を頂き、少しでも本人が安心できるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前に、ご家族様からの要望(困っている事等)を聞き、職員と情報を共有出来るようにしている。利用開始後は面会時や、連絡を細目にするようにし、現状や、ホームでの様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前に、本人様・ご家族の希望等を把握するために、実態調査を行なっている。その際は、ケアマネや施設職員等にも同席して頂くようにして、ニーズ・必要なサービスについて検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業(食器拭きや洗濯たたみ等)や男性の方でも出来る事(新聞たたみや、大きい洗濯物等を一緒にたたむ等)をして頂き、職員が共に生活をしているという事を意識して日々支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特変時だけではなく、連絡はこまめに行っている。ご家族との外出にも制限なく対応しており、誕生日等で、下のデイルームを開放したりと場所の提供を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室、通われていた病院へご家族と協力の元、お連れしている。実家が八百屋で、働いていた利用者があり、週一回程度、配達して頂き、検品作業を職員と一緒にいき、こまめにユニットに配達に行っている。	馴染みの理容室、ホーム内のデイサービス利用等の関係継続を支援している。休日に家族・親戚が来訪する時には、同法人のデイサービスホールを提供するなど、ゆっくり過ごせるよう配慮している。以前より付き合いのあったクリーニング業者の出入りも続けている。電話や手紙なども希望があれば続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性・様子などを考慮しながら、座席位置を決めたり、職員の関わり方を考えている。居室にてお一人で居る時間も大切にしながら、皆で活動をしたり、一緒にDVDを楽しんで頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先への情報の提供、また退去後に面会に行く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から一人一人との関わりを大切にし、不安や混乱している事はないか、利用者目線に立ち心情を知る努力をしている。ユニット会議にて情報を共有している。	趣味や職歴などの情報を入居時に把握し、日頃の食事の様子や行動・表情から、本人の思いを汲んでいる。職員間で、情報を共有し、家族にも確認するなど、本人の不安や混乱を理解して支援できるように努めている。利用者間の関係変化にも気を配り、職員が個別に声をかけ、ゆっくり話を聴く等して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人アセスメント、ご家族への思いや要望を聞き取り、また、これまでの生活、サービス利用情報も含め、生活パターンも聞くなど情報収集し、職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日決まった時間にバイタル測定を行っている。変化があった際は記録に残し、必要時は主治医に連絡を行なっている。家事手伝いや塗り絵等行って頂き、出来る事を継続していけるように努めている。朝・夕の申し送りや申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて、各利用者について話し合う場を設けている。また、ご家族面会時にご家族様の意向を把握し計画を立てれるよう努めている。孫の結婚式に参加させたいというご家族の思いをケアプランに反映したケースもあった。	ユニット会議では、職員全員が利用者の状態などの情報を共有している。各利用者の担当職員は、介護計画をもとにアセスメント票に記入し、他の職員、医師や看護師の指示や意見を介護計画に反映している。家族へも定期的に、状態を報告して、意向を確認し、介護計画を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録をつけている。朝・夕の申し送りやユニット会議等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年齢が70代の方がおり、機能維持の為、医療保険にてデイケアを利用されている方がいる。また、以前から通っていたデイサービスを継続したいという要望があり、当施設のデイサービスに通われている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りに地域の方や近隣の大学からの学生ボランティアにお手伝いを頂いた。敬老会では今年も龍寶寺さんをお借りし、複合施設全体で会を行えた。スロープの設置を考えてくださり、敬老会の際使わせて頂きました。隣にある神社や、近くのスーパーに買い物などに出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を伺いながら、かかりつけ医との医療継続を希望される方には、ご家族と協力しながら、受診支援を行なっている。本人の状態によってはご家族納得の元、往診医への変更をされた方もいる。	往診医をかかりつけ医にしている利用者が多いが、以前からのかかりつけ医へ継続して通院している人もいる。体調等に変化がある場合には、医師へ相談し、必要時には往診時に家族が同席している。状況によって、職員が通院時に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、健康状態に留意し変化があれば訪問看護師に連絡し、指示等頂いている。必要時、医療関係機関との連携や速やかな受診につなげるようにしている。週に1回の定期訪問がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時や入院中の医師からのお話の際は、出来るだけ同伴し、入院の原因や、入院期間の見込みや治療計画等の確認や相談を行なっている。その際はホームでの様子を入院先のDRや、担当看護師等にお伝えしている。入院期間中もご家族へ連絡をとり、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関わる指針について文書作成、説明、同意を書面にて取り交わしている。また、終末期の対応について、状態の変化に応じて、ご家族、主治医との話し合いをし、方針を決めている。	入居時に指針をもとに説明し、重度化など状態の変化により主治医へ相談し、再度、家族から意向を確認している。職員は研修を受けている。看取りの実績があり、看取り後はユニット会議で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習はこれからの予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練を実施している。地域住民、参加して頂けた。先日の夜間想定避難訓練時に、後ろの寮の学生が参加して下さった。	避難訓練には、近所の学生や住民の協力を得ている。部屋入口に、表には花、裏には避難時の移動手段がわかるようなカードを、さり気なくかけて準備してある。また、蛍光文字のタスキや腕章等も準備して、利用者、協力者がわかるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助の際などはさり気ない声掛けや自尊心を傷つけない様な対応を心掛けている。利用者を子ども扱いにならないよう努めている。	職員間では、声かけやアイコンタクト等の合図を行い、自尊心に配慮した対応をしている。研修にも参加し、職員間で振り返りをして、情報を共有している。名前は「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや考えを言葉に出来ない方に対して、こちらで決めるのではなく、選択できるような声掛けをしたりしている。具体的に選択肢を準備出来るものは準備し選択肢を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌が好きな方はDVDをソファで見て頂いたり、出来るだけその方のペースに合わせ過ぎて頂くようにしている。決めつけはせず、本人の気持ちや体調に合わせて、活動に取り組むことが出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の際は、本人に聞きながら、お化粧をして頂いている。希望によって、髪染めなどを、美容院にて行われる方もいる。入浴時の服選びは出来るだけ職員と一緒に選んで頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し、現状に合わせた食形態の提供をしている。一緒に会話しながら食事が摂れるようにしている。また、時々ではあるが、外食支援にて本人の食べたいものを食べに行く事もある。盛付け、後片付け等は毎日お手伝い頂いている。	食事係が中心となり献立をたてている。年1回、同法人の栄養士がチェックし、必要時には相談できる体制がある。誕生日には、利用者の好みを聞いて外食することもあり、また、天気の良い時に、ホームの外に出て食事をするなど気分転換を行っている。寿司屋を呼んで、ホームの中で、回転寿司の気分を味わってもらおう企画をするなど、食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況、疾患に応じて、食事量・水分量をチェック表に記入し、把握に努めている。むせ込みがみられる方にはとろみを付けて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施している。義歯使用の方は夜間義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄が出来るよう早めの声がけ、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表により、パターンを把握している。夜間は、パット使用やポータブルトイレ利用の人もいるが、日中は、トイレで排泄できるよう支援している。起床時に冷たいジュースや野菜を多く摂る、腹部マッサージを行うなど、自然排泄が促せるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表により、排便状況を把握している。朝食は排便に繋がるような献立にしている。オリゴ糖を使用したり、トイレ使用時腹部マッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人に合わせた声がけの工夫をしている。入浴を拒まれた際は、無理強いせず、シャワー浴や清拭対応をしている。	週2～3回は入浴できるよう支援している。お湯は、毎回交換し、リフト浴も可能で、利用者の状態により個別に対応している。希望があれば、同性介護により入浴することができる。菖蒲湯やみかん湯などの行事浴にも取り組んでいる。入浴を好まない利用者には、時間や職員を替えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は疲労状態に合わせていつでも休息出来るよう環境を整えている。居室内の温度・湿度を管理し安眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルにまとめており、薬の変更があった際は、申し送りノートや、朝・夕の申し送り時等で情報の共有を図っている。状態の変化があった際などは主治医に連絡している。服薬時は、名前・日にち等の復唱確認、飲み込まれるまでそばを離れない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きだった事、得意な事をご家族より聞き取りしている。個別で外出や、散歩を行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外出を楽しまれたり、好きなお寿司を少人数で食べに行ったりと、柔軟な対応に努めている。行事での外出も行っている。	今年度は、西公園の棧敷席・弁当を予約してお花見をした。年間行事計画の他、希望により、温泉やおはぎを買いに行くなどの個別対応をしている。また、近隣の神社のお祭りなど、随時外出することもある。家族協力により、外食や自宅への外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の立て替え金を準備している。買い物の際は支援をしながら楽しんで頂いている。ご家族了承の元、少額のお金を持たれている方がおり、訪問販売にてパンを買われたりされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に電話を置かれている方がおり、いつでも好きな時に電話出来るようにしている。お手紙の返事がしたいと、はがきの購入の買い物支援を行なった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の装飾は、利用者と一緒に作成した物を飾っている。また、リビングと台所が同一フロアである為、食事を作る音等が聞こえたり、ガラス越しに自然光が入り、床はクッションフロアになっている。	事業所は2階にあり、リビングは広く、大きな窓があり陽が入り明るく、やわらかい素材を使用した床になっている。台所からは、リビングや居室や廊下が見渡せる。大きなソファやテレビがあり、くつろげるスペースもある。温・湿度は職員が管理している。時計や日付は見やすく、掲示物は季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内の一角にソファを置いており、そこに座ってDVDを楽しまれたり、気の合う利用者同士が談笑しながらゆったりと過ごすことが出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物が近くにあることにより、安心する等の効果を伝え、なるべく使い慣れた物を使用して頂ける様にしている。居室内の片付けをする際は、本人と一緒にを行い、不安に繋がらないよう努めている。	エアコン・洗面台が設置されている。写真や馴染みのある家具、固定電話を自宅から持ち込んでいる。仏壇のある利用者は、毎朝、お供えができるよう支援している。居室担当の職員がおり、利用者の状態や希望により、動線を考えて家具を配置している。家族の協力のもと衣類等の交換を行っている。利用者が落ち着いて過ごせるように、利用者と一緒に片付けを行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示や掲示物、生活の手掛かりとなるものを出来るだけ配置し、自立に向けた支援をしている。ソファの位置を調整し伝え歩きが出来るよう工夫している箇所がある。		